

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500296		
法人名	株式会社 白松		
事業所名	グループホーム 白松		
所在地	千葉県八街市富山1345-16		
自己評価作成日	平成28年1月13日	評価結果市町村受理日	平成28年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成28年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に、本館「有料老人ホーム」が併設しており、年間を通し季節の行事等イベントを通じ交流が出来る。また、敷地内には遊歩道もあり散歩をしながら季節を感じる事が出来る。医療面では、本館看護師による健康観察に及び提携病院による医師の回診や、病院受診への送迎も完備しており、ご家族様への負担を考慮している。グループホームでの生活は、個々の残存能力を活かせるように援助しており、その事により居住者様が「満足感」「充実感」を得られるようなケアを心掛けている。グループホーム開設から10年が過ぎ、隣接する「有料老人ホーム白松の郷」の果たす役割は大きく、緊密な協力関係にあります。各種イベント、防災訓練、本館の看護師による毎日の巡回等は、居住者様やご家族の安心感に繋がっています。個人の残存能力を活かせるよう配慮・工夫された支援・援助は、理念実現に向けてのものであり、職員の共通認識として徹底されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設の有料老人ホームで行う豆まき、音楽鑑賞、納涼祭、運動会などさまざまなイベントにはホームの利用者も参加して楽しんでいる。防災訓練も合同で行い、病院の送迎なども併設施設の送迎車を使用するなど協力を得られている。法人の敷地が広く、農園、池、神社、遊歩道を散歩したり、月1回マイクロバスでドライブを楽しむなど外に出る機会をつくっている。医療面では併設施設の看護師が1日1回訪問してくれたり、医療機関と連携が取れていることなどが利用者及び家族の大きな安心につながっている。また、保育園、小学校、中学校、高校の生徒の体験学習などを受け入れるなど地域との交流も図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホームに掲示、理解の上、自立支援・尊厳のある生活への実践に向け努力している。	理念は、誰もが見えるところに掲げて全員で確認し合っている。入職時のオリエンテーションでは必ず説明し、日常的にはミーティング等で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入を継続し、回覧板による地域の情報を得たり、行事に参加。2ヶ月に1度近所の美容師にカット依頼。地域の米屋・スーパー・ガソリンスタンドを利用。また、区の文化祭に作品を出品。防災訓練に参加。	地域の文化祭や防災訓練に参加したり、また法人の納涼祭等には地域の人達が参加するなど積極的に交流している。併設の有料老人ホームのイベントにも参加し、各種ボランティアも多く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議において、グループホーム内の事例等報告したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域(近所)の方、地域包括支援センター、ご家族等に集まって頂き、会議内容については議事録にて職員へ周知・業務に活かしている。	参加者の日程調整が難しく、今年度は年1回の開催となった。ホームの現状や行事の報告がされている。	年間スケジュールで日程を決め、前もって参加者に案内するなど、多くの参加が得られるように工夫し、定期的に開催することが期待される。また、内容についても、報告に留まらず、サービス向上に活かせるような意見交換の場となることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議にて、グループホームの実情を伝えたりしているが、日常的な連携については例年不十分であり、引き続きの課題としていきたい。	施設長が市の「福祉計画策定委員」を務めており、法人施設の信頼度は高い。しかし、協力関係の構築については、以前から課題としている。	市の担当課には積極的にホームの状況を伝えながら、情報交換していくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生活の場が建物の2階にあり、安全面を考慮・またご家族からの希望もあり施錠している。	併設の施設で勉強会を開催しており、ホームの職員も参加して、身体拘束などについての理解を深めている。言葉遣いが気になる時には、職員同士で注意しあえる環境をつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加。常にご家族及びスタッフ間のコミュニケーションを大事にし、不満やストレスが溜まらないよう良好な関係作りにも努めている。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修・社外研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書で十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会の際や、意見箱を設置し、意見収集の場を設けている。また意見交換会において、意見・要望の確認を行っている。	年1~2回開催する「家族意見交換会」で意見を聞き、運営に反映するよう努めている。利用者からの意見としては食事に関するものが多いが、希望のものをメニューに加えるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングにおいて、意見交換の場としたり、都度、上司・他部署に問題提起したりと改善に向け働きかけている。	上司は、職員の意見・要望・提案を聞き出す場を設けるように努めている。職員の意見により共用空間の様式替えをしたりテレビの台数を増やした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表を用い、賞与に反映している。勤務表については、個々の希望休を取り入れている。社内・外研修に参加しスキルアップの機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設本館との合同での勉強会に参加したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、社外研修への参加の機会がなかったが、本館合同の勉強会で、介護知識や技術について情報交換を交えた交流を行っている。		

【評価期間】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に体験入居をして頂き、ご本人の要望・生活スタイル・生活パターンを把握し、安心して入居して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをはじめ、より細やかな情報収集をする事でご本人の状況を把握した上、ご家族からの不安・要望を聞いている。また、担当CMからの情報収集も大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族は勿論、担当CMや使用しているサービス担当者からの情報も取り入れながら支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家庭生活の実現」を常に念頭におきながら、食事を共にしたり、食事作りを居住者・スタッフと一緒に作ったり、時間に縛られない空間作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時、電話にて近況報告。外出・外泊の促し。毎月発行しているグループホーム新聞と共に、近況報告の手紙を同封したりして、常に繋がりを持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際は、ご家族との時間ゆっくり過ごし、頂けるよう居室にてお茶を飲んで頂いたり、日常の食材の買出しに職員と共に地域のスーパーへ買い物へ行っている。	自宅が遠い利用者が多い事や、高齢化の為、知人・友人の訪問は少ないが、併設の施設で行う行事に参加して多くの人と触れ合う機会をつくっている。また、家族の面会を歓迎し、利用者が家族等と電話で話すことも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のアクティビティや、食事作り、洗濯たみ等の家事を共同で行う事で、居住者同士の絆を構築出来るよう職員が介入している。		

【評価期間】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族にグループホーム新聞を郵送している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、ご本人の希望(何をしたい・何を食いたい・何処に行きたい等)を把握し、出来る限り反映したサービスが出来るよう心掛けている。	職員は、普段の会話の中から思いを聞き取るようにしている。また、表出が困難な利用者については表情などから意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聴き取りをはじめ、ご家族からの情報収集(電話や意見交換会を活用)している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録(個人記録・日報・夜勤日誌・受診記録・申し送りノート等)をこまめに行い、職員間の情報の共有を行い、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン・モニタリングにおいて、全職員から意見収集し作成の参考にしてている。また、意見交換会において、ご家族からの意見・要望の確認をしている。	利用者本人や家族の意向を踏まえ、職員全員の意見を聞いたうえで計画を作成している。定期的に見直すほか、必要に応じて随時見直し、現状に合った計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録(個人記録・日報・夜勤日誌・受診記録・申し送りノート等)をこまめに行い、職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望に出来る限り応えられるよう、専門医の受診をしたり、認知症状の進行により少人数のスタッフでは対応困難な方について、併設スタッフの協力を得たりしている。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の行事に参加・作品展に出品したりしている。地元小中高校生との交流会にて子供達との交流。訪問美容・マッサージ、ピアノ演奏の方が来て交流、楽しい時間を過ごせる場を提供。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(八街総合病院)による、毎週水曜日の回診。病院への受診は本館の送迎車で受診。受診結果については、随時、ご家族に報告。ムンテラ等必要に応じ、ご家族にも立ち会って頂いている。	協力医療機関及び訪問歯科が毎週往診に来て、健康管理をしている。眼科など専門医への受診は併設の施設の送迎車で職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の本館合同の朝礼にて、居住者の状態報告をし、本館看護師へ情報伝達。本館看護師による1日1回GHへの巡回。必要時の処置を依頼。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	居住者が入院した際は、毎日病院に面会に行き状態の把握。本館看護師も病院との連絡を密に行い、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、ご家族・病院・本館看護師・本館スタッフ等と連携をとりながら、今後の対応について相談・方向性を定め支援に取り組んでいる。	看取りはしないことを契約時に家族に説明して同意を得ている。重度化した段階で今後の対応を家族や職員と話し合っている。併設の有料老人ホームや特別養護老人ホームに転居したり入院などさまざまな方向性を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練やAEDの設置、緊急時マニュアル、救急フローチャート等により、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災の日を設け点検等を行い、防災意識が薄れないようにしている。地区の防災訓練に参加。	職員が毎月1回消火器、警報設備などを点検している。併設の施設と合同で消防署立ち合いのもと、年2回消防・避難訓練を実施している。うち、1回は夜間想定で行っている。また、地域の防災訓練にも参加している。連絡網を整備し、災害時には短時間で駆けつけられるようにしている。	

【評価期間】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩」として、常に敬意を持って接するよう心掛けている。居室を「個人の家」として意識し、入室の際の配慮をしている。トイレや浴室においてもプライバシーに充分に配慮した援助をしている。	従業員の心得などのマニュアルに基づいて研修をし、利用者一人ひとりを大切にケアに努めている。日頃のケアの中で気になる言葉があった時は、職員同士で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら希望を表現する事が困難な方が多い為、声掛けの際は選択肢を提供する事により、自己決定が出来るよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の得意・不得意を把握した上で、アクティビティや家事の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際の衣服選びは、ご本人と共に行っている。外出や行事への参加の際は化粧をする。2ヶ月に1度の訪問美容室において、ヘアカット(希望によりカラーも)している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い等を共に行っている。メニュー作成の際、希望を聴き献立の参考にしている。	献立は利用者の意向を聞きながら検討し作成している。食材の購入は利用者に行くこともあり、調理や盛り付けなどできることを依頼している。誕生日には利用者の好みの献立でお祝いをしたり、食器などにも気を配るなど食事を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録・把握。口腔内や心身の状態に合わせ食事形態やメニューの変更。週に1度体重測定。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケア(声掛け・物品の準備・ブラッシング・義歯の管理等)を行っている。必要に応じ、訪問歯科の受診。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握の為、記録を残し下剤のコントロールや、誘導時間の目安及び適切な衛生用品の検討をしている。	トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表を利用し、個々の生活パターンに合わせた声かけや誘導をしている。夜間もできるだけトイレを利用できるように工夫するなど、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした食事や適度な水分の提供、散歩や運動を日常生活の中に取り入れ、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴は隔日に実施。ご本人の希望の湯温に入って頂けるよう調整したり、気の合う仲間と楽しく入浴出来るよう配慮。	気の合う人同士で入浴するなど、入浴が楽しめるように支援しているが、一方で安全面にも配慮しており、二人で入る時には見守りも二人体制にしている。音楽を流したり、会話を楽しんだり、個々に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムに合わせて休息したり睡眠がとれるようにしている。室温や照明、寝具の配置等にも配慮し心地良い場の提供を心掛けている。週に1度リネン交換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録に経過内容(受診)及び処方薬の一覧表を管理し各スタッフが把握出来るようにしている。また、症状についても個人記録や受診記録に記載し変化の確認が出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意・不得意を把握し、家事・アクティビティ等の提供をしている。ご家族からの差し入れを楽しみにしている方もいるので、個別対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の遊歩道での散歩。本館で行われる行事の参加。不定期で行われるドライブ。ご家族の協力のもと外出・外泊。	敷地内の神社に参拝したり遊歩道を散策するなど、外気に触れる機会を持つようになっている。また、初詣や花見など月1回程度ドライブを楽しんでいる。	

【評価期間】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に現金を使う場はないが、ご本人の希望により財布(小銭)を所持されている方がいる。本館売店やドライブの際の買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、居住者様とご家族の電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度は空調にて随時コントロール。窓から外の景色が見えるよう配慮。廊下・居室入り口等季節感のある飾りを掲示し心地良い環境作りに努めている。	共用空間は季節を感じられるような飾りつけをしている。テレビを2台設置するなど、利用者が好きな場所で過ごせるように工夫している。掃除も行き届いており清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人席とは別にソファを活用したり、定位置の食席を希望に応じ変えたり、自由に過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具や物を配置。ご自分で作成されたカレンダーを掛けている。居室内が丸見えにならぬよう暖簾を使用。	各居室には洗面台や収納用のタンスが設置されている。それぞれ使い慣れた家具などを持ち込み、家族の写真を飾るなど居心地よさそうな居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階廊下・居室・食堂はバリアフリー。各居室には異なる暖簾と表札を付けている。トイレにおいては便器の高さが異なる物が設置。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所